

北陸新幹線（敦賀・大阪間）建設促進総決起大会

日 時 令和6年11月14日（木）午前11時45分から
会 場 ザ・キャピトルホテル 東急 1階「鳳凰」

次 第

- 1 開 会
- 2 主 催 者 等 挨 拶
- 3 来 賓 挨 拶
- 4 来 賓 紹 介
- 5 大 会 決 議
- 6 閉 会

北陸新幹線（敦賀・大阪間）の整備促進に関する決議（案）

北陸新幹線は、大規模災害時において東海道新幹線の代替機能を果たすとともに、東北・北陸・関西・山陰などをつなぐ日本海国土軸の形成に必要な不可欠な国家プロジェクトである。

そして、北陸新幹線の開業効果を早期に発現させるためには、一日も早い着工と新大阪駅までの全線開業が不可欠である。

敦賀・新大阪間については、平成 29 年 3 月の与党整備新幹線建設推進プロジェクトチームにおいて、小浜京都ルートに決定し、その後、環境アセスメントが行われている。また、国土交通大臣は、令和 2 年 12 月に「北陸新幹線の取扱いについて」で、「関係機関と調整して着工 5 条件の早期解決を図る」ことを示し、令和 4 年 12 月には「北陸新幹線（敦賀・新大阪間）の取扱いについて」で、「開業までの期間を最大限短縮するよう努めるとともに、施工上の課題を解決するなどにより、着工に向けた諸条件についての検討を深め、一日も早い全線開業を実現してまいりたい。」と表明し、令和 5 年度からは「北陸新幹線事業推進調査」が行われている。こうした調査の進展を踏まえ、本年 8 月には詳細な駅位置・ルートの案等が示されるなど、現在、政府・与党において、令和 7 年度中の着工に向けた議論が進められている。

このことを踏まえ、あらゆる手段を尽くして、新大阪駅まで一気に整備し、一日も早い全線開業を実現するため、政府・与党において、北陸新幹線の整備促進に関する次の事項を実現するよう強く要望する。

1 新規着工に必要な予算の確保

与党において、年内に詳細な駅位置・ルートを決定し、令和 7 年度中に認可・着工するとの目標が示され、国土交通省が、先般の概算要求において、新規着工に要する経費の事項要求を行ったところであり、年末の政府予算案決定に向けて議論を加速化し、必要な予算を確保すること。

2 環境アセスメントの丁寧かつ迅速な実施及び敦賀・新大阪間の一日も早い認可・着工

沿線地域の意見を踏まえながら、環境アセスメントを地元調整も含め丁寧かつ迅速に進めること。併せて、整備財源に関する議論を深め、必要な財源を早急に確保するなど、着工 5 条件を早期に解決し、一日も早い認可・着工を実現すること。

3 施工上の諸課題の解決と駅位置・詳細ルート等の早期決定

施工上の課題を解決するための「北陸新幹線事業推進調査」について、最大限の予算を確保し、早期に課題を解決すること。また、事業費抑制に努め、全線開業に向けた具体的なスケジュールを明らかにするとともに、新たに示された工期の短縮に向けて最大限努力すること。調査にあたっては、国により、沿線自治体等への丁寧な説明を徹底した上で、沿線住民の理解を得ながら進めること。これらを踏まえて、調査を加速させ、早期に詳細な駅位置・ルートを決定し、費用対効果についても、速やかに解決されるよう、検討を加速させること。

4 新大阪駅における駅位置の早期確定及び駅機能の強化

広域交通ネットワークの一大ハブ拠点としての役割が期待される新大阪の駅位置については、先般、既存駅の南側地下に配置されることが示されたが、今後の詳細な検討にあたっては、既存の新幹線や在来線との乗換等の利用者利便性等を考慮すること。

5 沿線地域住民の理解促進

国が前面に立って国家プロジェクトとしての北陸新幹線の必要性や意義を説明し、早期全線整備に向けた理解促進を図ること。

6 北陸・関西間の円滑な流動の確保

金沢・敦賀間の開業により、敦賀駅において新幹線と在来線特急との乗換が生じたことから、北陸・関西間の円滑な流動が確保されるよう、利用者の利便性向上を図ること。

以上、決議する。

令和6年11月14日

北陸新幹線（敦賀・大阪間）建設促進総決起大会